特39
322

革細工
金名細工
木細工

東京圖書館
新門 一七函
五部 四架
九類 六一二號

博覽會見聞錄

博覽會見聞錄卷之六

博覽會
事務局

第六區

第六區

毛皮類

區分り馬具ゴム等よて作りたる物の
凡そ獸の皮を其ぶ丈夫あるりのみく人生の日
用ふ欵くべきの一ッあるよめし革を馬
具ふ用ゐ武器ふ用ゐ風車水車蓋氣等の運動を
うつを紐とかし旅行の季とかし靴とかし鞄と

おしたゝむるおしき外種〳〵の用ゐ立つもの有りさまゝゞ狀區を華細工の區とし才一ぢゝ滑し華美びふ華ふく作りたる諸品馬具旅行季羊の皮ふて作りたる紙又ゝ筒屋の用うる皮等有りて才二款ゝ虎の皮熊の皮かどの如き毛皮鉄才三款ゝゴムふく作りたる種〳〵の品おて滑し華いあつき諸堅き和〳〵のかる等諸國の出品おびたゞし〳〵種ゝまさいろ〳〵あてまたをもをいて旅行季ゝ捲げのおを作りて外種〳〵のりのを作る深華ふいたてていづゝの國の出ふれその色こゝふ美し真紅落紅栗色茶色紺淺黄茶紫黄色萌黄黒ふ極工のおてりの〳〵如くあるおてあるひい孔雀風多の羽ふの如く紺色ふして綠のふく並色紅を濃くぬてたるふも似て金色のふき完りをおびたるもあて深華ゝ土耳其のりのふを色まふもゞ美し又いろ〳〵の漆華琉切りてもぎ合せ人物草花木の実ふどの画をかせるあてこゝまゝふいふ多ゝ彩ふどの上ふはくるりのふして澳地利の名産ある由ふて

又華を染くしやう〳〵のふ揉〳〵五色ふ染め布の
かくてゆるやうみし〳〵たるもあてこてをも手袋其
外やいらとのある華の八用あるところふ用うる
ためあり
鰹ふ亜弗利加ふ産するりのふして
南亜米利加よりも挨及らりも出品あて猛るふ
ふを度ふ吹延巴ふ〳〵煙草八金いも其外ふ用う
さるとだ墺地利人の出ふわふざめの皮を染淺
黄栗色ふ深めふ染りたるがかく艶あ
るあて色ハさのごとく黄〳〵ざともめづ〳〵
きりのあり
凡車ふ車蓋氣車あじ動うそちこの〳〵を稲をみる
多くい華掛け車を用う其華掌八牛の皮ふして
柔らこのふ滑ー厚くして丈あるものを用う幅
ろ二寸ぐらおあるもふ八寸七八寸又一尺
余あるもあていつもたき風の糸やうの麻の
より糸ふて縫いあるひたるも華の幅二三分ぐ
らゐあるものふて縫ひ又ろ鉄あまるうちたる
あとあり麻のよて縫みりのろ幅あすで
のてあるふたてよ節ぬひたてこてまい銭の車

ふの類にて糸取て車のまわりべのめぐくに絶ぬやうふせんがためなり

馬具の大概

馬具ハ大概ハ鹿皮にて造るものなれども鞍ハ鹿皮にて造りこれを裝ひ出ル

毛皮

毛皮ハ鹿にて造るものなれども鼠ハ栗鼠ハ鼬ハ鼬ハ鼬

毛はみぢかく作りたるも出せるあるひは種々の色の毛皮を切りてもぎ合せ或毛氈の如き紋ぢらをおせるもの又は方七尺ばかりもあるべき羚羊の物おてあるひは羆の毛皮をもぎ合せつくりて出せるもの又は花菱の如き紋ぢらを其中央に作り木嵐の形あるひは六角の星の形あるひは唐松形あるひは渦巻ながす燈の燭臺等の道具一そろへいづれも木製鉄製あるべきそろひの鹿の角のみおて作て布あるべきそろひの鹿の皮おて張て飾りをつくべきそろひみな其獣の皮ふ物のその外戸棚の上おとふ獣の皮をつきたるおてあしたるもあて凡そうる出ふのかくのみな其獣の皮ふ物を売てせきたるおく作りたるをつぬるありゴムの開おひろきりのの機関油中の物を探る仕掛等ふハおくてあらぬものみおて又こまごまと種々重寶ある発明もいでくるやうおかぬさ杖ど次巳の三款をゴムおれの紙とせりゴムおつぎ筒きいろくの板みの

べたるりの中ゟ紙の包を出しあるひは大ふいろ〳〵の袋を外あるひは筆しおし墨と硯と又は織たてゐる糸ゟ紐のたてぬきのたゝめみさを〳〵のたゝさの糸しおせるもあるひは角ゟ切りたるもの輪ふおしたるもの字けしふ用ふるかの筆を数〳〵であるひは外科道具ふ似たるものあるひは雨衣としたるもの瓶のゟの栓しおして空気の通らぬやうふ入きを外種〳〵の袋を似て又さ物の挟いろ〳〵

幅は尺長さ三尺厚さ一寸ほどのものゟおて亀甲つなぎふ彫ぬきたるおゝひに菱つふきを外種〳〵のものうを彫りたるおゝ小児のもて遊びふ文字を彫りたるりの筆を外ふ児のもて遊びふいさてゝ人形あるひは多ひ獣の形ちふしあるひは大ふいろ〳〵の舘しおし五色ふ彩どりたるもあるこれふ小児あやまちもてりて遊びの上ふ滾け倒るこしあをれもゴム製あまこゐ怪我をする事おき放あり

又コム製の人形を出せる人あるをまをの人ゟど

の大きさふーて肉色よく玉眼を入ゟ慌細工のりのよくらぶまてたゝしてる足も初ゟさゝくれ折りこぐみも自由あるものゝあり竹田が・ぜんまい仕掛をゆづるあるべし

改良巴の市中ハ大むね石たゝみにして馬車の輪こまふ激しく其音かまびすしきを減ぜん事を工夫さるる由欧邑の出品ゟ車の輪の外をゴムゟ覆ひたるあり此音を減ずる工夫の試ゟあるべし馬の沓もゴム製のりのた欧

るあるこれハ狭路し馬の足の間ふいまゟて馬の足のいさまぬためふさるるりのゝ由魯西亜の都ふた人の靴の裏ふゴムをあてたるりのあるも靴ゟ井五邑のりのあまた欧邑ふ出ゟ人もあるゝ又雑船したる物の海底ふ珊瑚樹あどのかき海中ふ建築等の仕業をおとふ昔しい狭りゝ又ゟ水中ふ建築等の仕業をおとふ昔しい狭ふくゞ作りたる鐘のかきふりのみ入りてさゝらきたるりのあるが近ごろゴムゟゝ衣冠りの者

を仕りこれを着て水中へ入り陸上のわく仕業をおよそ五里ばかりその夜疲り物等へ羽十七匹おび出品さるる人これありこれ水に沈ませ又も出ませり雨衣を外水を通さゞる布よりゴムを引きて用うるものありこれ風船の風袋おとし風のりをぬためおゴムを引く事あり英國の紙おゐられ佛蘭西おくに其都パリスのバイフェットフレー

ルといふ人の滑ー革製造所及び同所のホエットといふ人の社の滑ー革製造所同所のセルバンアといふ人の毛皮の製造所をべて三ヶ猶乙おゐてもスタラスベルグのヘルレンスミットといふ人ヘッセンウォルムスタットのヅール、ラインハルトの二人おゐびヘイルコルヲの名おゐびヘイルコルヲリウスといふ人の滑ー革製造所おの〳〵一ヶつゝ都て三ヶ墺地利のスミット、フランツといふ人おゐび匈加利のスミットアトルフの社の滑ー革製造所魯西亜のゴム製造の社ゐ各一ヶあり

ワが國ふて㕝東京の小林紹高が染革ふ進歩の賞牌日本の馬具ふ有功の賞牌又日本の革細工ふ甚ざ風韵ありして雅致の賞牌を得和歌山の紋革もまた表章を得たり

博覽會見聞錄卷之六終

才七区

金もの細工玉細工の区

鉄もの鉄をかち金銀細工玉細工をいふ才

一般とし鍊ものの細工ものを才二鉄とし

鉄銅錫等及び混和したる金

玄外の金りの銅かふりのみふ似たるりの比才三鉄とを

凡そ金銀玉石の細工ものゐ時計の鎖り襟留等の

針胸の鈕釦袖の鈕釦又は婦人の耳飾り徇飾又、
頸のかざり、腕輪指輪のたぐひ、
石金鋼石英ダイヤモンド琥珀、水晶珊瑚瑪瑙真
珠等甚外種々の美くしきものをちりばめ或ハ
七宝を施めあるひは又甚賤しきを鍍金みく
ハ玉を箝むべきところろふを硝子煉りものあるひ
を用ゐたるもあり
珊瑚樹を以て利の海ふかく昔より甚多く産し甚細工
以て利ところろふ名ハ多くせ
業とあるをされど甚出ル多く紅の光ハ

人の目を奪ふくらもところろふカルロ、サントポント及
びリブールハ又といふ人
ハ高さ一丈幅八尺程の箱ふ硝子を張り其内ふ
種々の枝を列ら禄ふもあるハ枝のまゝあるハ枝ふ切り
たる、半磨きたる磨きよきあり又ハ半磨きたる者頂序をたゞ
列べぬるのあふ甚工業の多繁も知るふ甚外大小
いろ〳〵のたまふあり又ハ糸ふ通しあるハ掛け
つらぬるの如くなるも
又方四五尺をうるの硝子の鉢ふ水を湛て底ふ

海中の暗礁を摸して岩を畫きこれを迎ふあるべき海藻を植ゑ名を問り枝珊瑚樹のやゝ赤き大きさあるを植ゑ名たゞを知而ふさき紅を添あべられるを釣をおろしてあごして珊瑚樹を取るさまを示せるを地を元來亜非利加の海岸ふれを珊瑚を生ずる地アルゼリヤ、トリポリ、トニスといふ國〳〵にてアルゼリヤと名あるうちもの迫海ふ〳〵取るもの多くデーギュの海底ふもまゝ赤きものを產ふといふされを俳薫西の屬地アルゼリヤよりも珊瑚樹のよきものを出ふそれ古珊瑚の甚ふ美しきもあるを珊瑚樹の紫色あるいふ古來甚種ふ甚ふ稀あるりの

ふして世人のもつふも貴むりのあるふ非ふこふ陳列したるふい大きさ几そ銀壱ぐらゐのものみて價五千フランク几そ千あるあるふ又惠赤の亀ふして大きさい尋常あるもの價い七百フランク百三四十円程あるを珊瑚樹を貴むる清國りふも甚しさればこふつゝ称ふるふ多くの種類を清國ふ買ひ集めた

ある由聞ふいよ清國の皇帝の所藏ふ珊瑚樹の
珠の大きさ鳩の卵ほどあるが二顆ある由外ふ
も類あきりのしろくたるを清國の帝擧これほど
の珊瑚樹今一ツ得んと思ひ以太利の商ふ託し價
五万フランク万円程
の二ツふ及べど皇帝悦ばずして已みたまひぬ
といよ

其外以太利の出ふ珊瑚樹製のもの婦人の飾り
等のさまざまある物ふ質のよろしき細工の工
を勞るもを

玉石の細工を英佛もつとも盛ふこれふ英の
ハンコックといよ人の社中ふ製し出せるりの
ち甚玉質精良ふして堅固あるをいく映硝巴ふ
名あるといよふ出ふしるもの尓て大ある
金鋼石、孔雀石等皆驚くべきものあり又
婦人の耳飾り拘飾りの考を揃ふ價二千ポンド
ステルリング凡そ千四百円程あるあるこれらを陳
列しるろみる凡そ二千ぐるの飾ふ五百ポンドステルリング
凡そ一万四百円程を拂ふる婦人い酌
迫づく事を得ざるしい由

品りのそも多し真珠、珊瑚珠、瑪瑙、琥珀、金鋼石、孔雀石、硼
其ころき物あり其擬製
のものゝうし男ふたうも其美しき事限なし舘
あるりの為に便利なく美しき女子れ
容易ふ得らんへしお願つゞく〳〵なる事ふ其兼
相あるを見るべし遠く免ふ随分よ
く見ゆるやうよ實
列〳〵森さるりのおも精好みてやうて
のりのよいさくか美あらんそを内幅三寸余ふさ

佛蘭西の細工物金銀ふちをもめあたをを
褌のせるて又ゐ晶の胸飾り袖釦等ふ特くの形ち
を裏よを彫てこうみす表よ透明よえゆるやうにし
たるあて獅子の頭を彫てこうみたる袖釦をえる
其たてごを繋ぎくく鮮うふーて甚ぐ細く洋らの
ふえるふあらざれを見えざる程あり此袖釦を
二ツみくて價三百五十フランク仏を六十
の銭ふもこうのれあり英
玉石の擬造まて諸國の出ふあて墺地利人の出

二寸五六分の金銅石あり色いと艶しく初
めは真の物とおもふに然るに大いなる金銅石し
かも「あるル」のすくれ甚くきらくしく見ゆるが
作り擬製なる由札を附けたるこそしめくと甚
真の物よりきらくしく製作を遥かに勝れるを得
ざるなり

くあるまじて諸人の日用ふあくて叶ひぬもの
ふ放くへ甚便利を考へ工案を謀りくゆくをこ
ら〳〵試験をあまた推〳〵量を積るられ西洋
のひ〳〵ふ文明ふおもむく通理あるを土耳甚古庭
ふ小さき建家を作らふ古来より伝ふる金
銀玉石の器材をつくり称なる金鋼石みく作つく
る梯あるを刀剣ふ筒の如き武器ふ金象眼をお
し玉ふど箱めらみたるもあるを又真珠の玉ふど
のたきさあるを数ふ顆をそらみうる札あるを
も世ふめづらしきものあるを

婦人の掏飾ㇾ針を附ㇾるものまゝ鞘ㇾ
あるも奧地利、匈加利、獨乙、英吉利、佛蘭西等の國ゝ
ふろへたるも周圍を金ふして真珠金鋼石ふどを
並べつゝ袖中央ふ時の扱を箱めたるも時の扱ふ
さゝわるゝ五六ふ位あるもいわづふ三ふ許り
あるもあり精良あるも瑞西を時計ふ名
ある國あるべきまゝ吠扱の細工ことさゝよろしき
あるもあるひ蝉の形ちを似ㇾ甚だ左ふひらく
やう山をこの羽をひらけだ中ㇾ時の扱あら
ハるゝまゝ婦人の掏飾りあるも

金細工のものふして殊ふ玉を箱めざる飾りおまゝ
諸國の出ふふろへたるも奧地利ふくふ金細工の九
の時計の表同じく錂皆まぜ金の目方ふ付き
一定の規則あるて定めよろ多くの金を入るゝ
事を許さゞ價も一定の標準あるよしさま
べ喜ぶめよろ性来よろしき金細工のものふく
九ぶまれる價より貴く賣らしめざるよしゝ
奧地利の郡ふ銀の食器のこを出せし人あり
幅おふそ五寸ふそのものふふろへ五段り枡形
似ㇾたるも皿、鉢、瓶子メルキつぎ、コップを

一つぎ藥罐湯沸あり、ヒ三ツ半と、小刀等銀の光り互に相映じてかゝやき合へる英佛狗乙等の部ふもかゝる銀製の食器なれ皿等あるまゝ英の部永経三尺あまりの純銀のレトルトあるも

土耳其の金銀細工をかゝる茶盆あるの紋がゝ甚ぐこまかくして古風あるを編たるをあり一土耳其の茶壺ハわの國のものあるいハ支那のものとも變りてたゝ婦人の耳飾り頸飾りあるひハ茶盆玉ふたて等の如きもの最も多

どの如き形ちふかき茶碗を載るあるを見る銀細工の紋甚ぐ密なるハ土耳其ふ限るやうにあるを其細工のもきりのハ廣蓋、砂糖入、水呑各一揃ふくく甚倹九百フローリン位を十円余あるもあるを支那ごも出ふしたる銀細工の花かんざしも細工も土耳其ふ似なるを英國の屬地印度領の金細工ふも甚ふ似たりうれ東方の風とゝゝえ玉殊あどちをなめたるもあまぐ欧羅巴のものとゝ大いふ異をもつて英人まゝ印度の王の宮中のさまを写した

る出ありて左右ゆくる通ふ又かくる金銀呑み
又
銅器銀器をガスの燈臺幡燭立床飾り花瓶食
器又礼皿ひくき戸の引手あぐあるひは古代の
形り物の像を摸しあるひは牛馬あるひは象嵌
の人形あるひは獅子あるひは旗章を鋳出しく
又かくくさ草花あるひは文字をつゞりつゞ
けあるもあり又銅又鍍金くく鍍銀くたるは純金
純銀又て作りしものくく思ふまゝその幡燭立ガ
ス燈臺の如きは大堂の獅子花の如く菓子皿
をあらゆる臺は右の如く種くの形ちを鋳あ
たる銅器の鍍金したるふ曇りたるふの皿のさゝ
の紋ぢらを所出したるふを木の枝又花の咲ける
ぢの如くあらべたる
佛蘭西の出ふ大なる寺の雛形あるは銅製ふ
て鍍金したるものあるを細工のさまこのふして美
しき金色のあぐやかなるこのある等実ふ人の目を驚ら
この世ふかくふ於たる和蘭の於ふもあるまくまゝ精
巧めづらしくく美しき出ふある

中ゟ銅器、金銀器のかたちをれたるも味ひあるものを並せ、その間ゟ花瓶ゟ船来朝鮮の形ちのものゝこれゟ繕ゟ木をもつて蔓ゟ葉ゟ皆金色ゟして朝鮮の花を硝子

あり

鍍金、鍍銀ゟ仏ゟたるゟ将棊の駒あり又惣鍍金ゟ机を仏ゟて鏡立を附けたるあり又ガスの燈台幡燭立等多くい天井ゟり垂ゟ下ゟ八方ゟ枝をもつゟれゟガスを通ゟしあるひい幡燭をなして多くべ、かゟるのかゟりゟさゟるゟりのゟ

あるをかゟる形ちをなして鍍金あるも

鍍金の御ゟたゟふひゟけ右のごゟく大あるゟけ燈台ゟり後掛事森基あゟらのぬきゟ鍍金ゟたるゟあるいゟ針ゟごのぬきゟ尋常の用ゟ充てゟ久ゟく保つものあゟいざるりのゟ鍍金ゟしたゟあゟ

英國の訟ゟ惣銀の器物あゟ高さ二尺ぢゟうゟ人物あるひい獣の形ちあゟ又古代の小舟を支拂二人ゟ乗ゟ雅致あるりものあゟ

凡そかゝる技もかぎりをもつてしたるものにて色も美しく形ちも味ある中〳〵ふせんと心を用ゐるものなれば今日の実用ふいあるてもさら〳〵錠の用もつとも廣しとも

錠も奥地利、匈加利、獨乙英吉利、白耳時等甚國ふ産もるまれもざる多けれ共甚輸出もまた多し瑞典諸威、魯西亜等こさらに錠の多き國ふ

ら政府巴の錠の製法を甚ぐ精練ふして左き細き凹きも薄きさらのまるゝさらもあく薄き紙の如くなるまでもべつ〳〵細きも糸の如くあ

むべしこれを練りてやこのふしこれ肌理をこまやかに

を磨きてい鏡の如くまるしむこれを切りこれを穿ちこれを削りこれを磨く蒸気を用ゐ風水の力ふもる其機械の妙用ふよりて木を切る出小穿つ孔を易し実ふたゝやさき事飴の如しといふべし

安全金箱といふものあるを維納のウェルタイムと

いふ人の出ふあるをもつぐもも錬錠ふ作りたる箱ふして大小いろ〳〵其大あるりのを西洋み〳〵尋常家門ふ備ふる戸棚ぐるまでその幅

三尺余高さ弐尺弐寸を限ふ数隔の棚を設けさまざまの引出しありて外を観音びらきの戸ふ〳〵鑰を其錠甚だ多のごとくなる事能くぞ箱を惣て銭ふして円の方ふも萌黄の羅紗をもたり其ま巾きものい円方三十八トン允そ一万三百貫目ほどふ明事ふ〳〵事多く右の如く重き放ふ盗賊も持ち出づる能ざる放ふ火災の患ふしされば是れを安全金箱と名づけたるふも先年七耳其の都コンスタンチノポルといふところ

ろふ〳〵薪あまた積〳〵数箱を中央ふ置き薪ふ火をつけ〳〵試しるふ其試して后るごとろの圖を油画ふかき〳〵せ〳〵額〳〵のし其出不所のよく高く掛けあるを数人の引れふこの圖を画ぎたるを右ふいふ重さ三十八トンのりのを二重の戸棚あるもの千三百フローリン允そ六百円程五十二重の戸棚ふきりのを千二百五十フローリンあるもの五百七十五円程あまた其小さ工場ふ〳〵ふ箱を作るもあまた数人の細工場ふ〳〵ふ箱を作る事一年の間三万四千箇あまといふ

佛蘭西人もまさに安全金箱の出ふあつて甚ふ奥地利人の出ふありのごとくさに精好あつて奥人の出ふを磨きくに銀の如き色ふし佛蘭西人の出ふを閃き銀の如くに磨きよげ外を漆ふく塗り木の如き色ふしたるに甚外英國以ふ利の部ふも此出ふあつて奥地利の金ものくその出ふ所ふもこの技を出したるに西洋ふく人家石室又ふ煉化石佗であまた火災ふ甚だまれあやまちくふを多よりあり屋根までふ炎如る事ふ少ふし唯道具を焼く佗ふて清俗初面ふくの如き金箱あまたふ甚ふ甚ふ高ふあたるふものふ安全あるふ箱ふまでふ上下四面ふ厚ふ鉄ふ熱ふ傳ふる事ふ早ふ箱ふ甚ふまくありおのふ中のもの悉ふ焼ふ盡ふ事ふ二十ミニスタン千ふ八百ポルンド貳千ふ斤ふし此箱の如ふ堆ふあるを知ふまでふあくふ中のもの悉ふ焼ふ盡ふ事ふ先年築地の大災ふの時ふある外國人ふの箱ふ初時計ふまくいまくふ立退きふおくふするふを後ふ取りに見まくふ箱ふ甚ふまくふあるふ時ふ計ふを

滿ぞ有るものありさて内外國人大に憤りて
これを賣ることある外國人を屢せるものを賣りたる
ものゝ如く外國人屢死ものあるに
ざるをいかゞせん家を焼くなどの事あり堪
えざるものゝ如く西洋おくからの船の初めて
港内に来るや都屋の飾をなし
また加うるに金箔を
ものゝ如く園内の内も空なる
へ分ち置くものゝ如く戸障子の
の形ちなど仮に粧壁門などを飾りたるのみ
その門を開きて有るも甚だ古代の人物かく
べくを壁を引出しもあるもひらきとなる
もあるいづれも磨きあげて銀の如くしたる
に金象眼を入まきえなどの
らくされどの脇物こまやかに実に羅馬弥即
等り名るうき大寺の仕様をあらはしたる
右等の箱戸棚のおもてその錠の仕掛甚だもの
ことたるものあるとかくる錠のごとき他物を交へざる
出ぶしたるん、あるを裏のかぎをる出して内景を

見るに堪こらしむ其精密あるい時計の機械の如くあるもあるいは盜人あくも他の鍵を開ありいる他の物みこわあけあるいは捲ぢ切る等のありあるて又鍵二挺みく開閉するやうに仕かけたる錠あてこれを雙方立會の上みくあけあそべき箱又は箱おろふおろを鎖り先づ甲の鍵みて一とまかくまかく次みての鍵みくひらくやうみせて甲みくも乙一挺みてもひらくやうも閉るやうもでき仕ぬりのあて

大工道具おいてそ凡車、水車、蒸氣等の力を用みくはうふりのもあて人のそらきのそふてはうふりのもあてそらく甚疾裏ど多一盤木を切る爲鉞の鋸木を引割る鋸あて鋸を丸くして車の如くまわてて切ふりのたてふ昇降して切ふりの華の如く幅細くして輪おあたる鋸上下の車おかふて楕圓の形ちふ爲て上下の車のまわるお從ひて動くりのありまた庵草などの如き細き紋を彫ぬくお用うるりのい針の如く細くしてこれふ弦をかけ

て閉う鋸いろ〳〵の製造場ふ〳〵風水蒸氣を用ひみ〳〵たゝ〳〵こうをなきりの又を足ふ〳〵踏〳〵鋸を動ろ〳〵両もふ〳〵本をあ〳〵がひ〳〵切らを仕掛のものもあを鉋おやうく〳〵ものよあらぞ國のりふ〳〵ぐ〳〵も前へ引てを外濃がんあ種〳〵向よ押してけづるものあ及も皆額縁の如くを彫る低あるものあて甚外鑿錐鎚の類木幅、かをごん、幅輪等鉄も鋼も錬りかゝらふ〳〵き放ふいろ〳〵も利ふて美〳〵きものあを

造作あるひを家具等よ多く鉄具を用うるを探千の数庭花園あどの外園ひまるをあぐ〳〵二階ふ昇る階ふ、机、うかけ、麻臺、ふ洗臺などやぐ國あ〳〵ぐ木ふ〳〵作らるべきを多〳〵を鉄細工ふしたて細くして丈夫あるを使利あるりのあるまゝ花瓶を札四を外種〳〵の四鉢数等陶器あるをきも多〳〵られ礦山の業大ふひのを錵製ふしたるも多〳〵られ礦山の業大ふひら多〳〵熔礦の業いろ〳〵み鉄の製造次第ふ巧うふあを裏ぶ下直〳〵作る事を得るやうふあたふ故ふ鉄細工のもの〳〵盛んふあをた

ふあるべしされど尋常燒ㇾ用うる鍋なべ
さらあをㇾ甚内の方
水次ぎ等の鉄よをㇾ陶藥を引きたるもの水桶、
まで皆錬製あり孔ㇾ桶盥おどのるゐを内の方
きブリッキのおく錫をㇾ引き外をさるぐのいろふ
塗ㇾたることろふ英國の新よ出ふーたる湯あを
盥ら肉外しもふ大理石のおきいろよ姿ㇾ艶ㇾ
いい紋のうをいい真の石よ吳あるぞたるき試
うて始どめくその錬あるふをㇾ知るおどありを
外よ箱、よ鏡の縁、盃の板あるぐ薄き錬あるく作り
本製のおき肌理よぬをあるひい漆器のおくふ
あーあるゐをㇾ彩色雨をかきあるひゐを蒔繪を模
しなふあるど處くふこれを出品ーたるいづもも
甚美しきよ比ぶまれど價ゐまれまぐ下直あるも
のあを
以ゐ利除卽の出ふ日ㇾ幅二百半おど
の板の如きりのあるを唐茎のうまのき紋の
らを透しふ鑄出しーたるものあをこれを花園等
の建物の欄おどよ用うるものといふ澳地利の
郵ふ全くく錬ふ造ㇾたる郵ㇾを出せを謝

屬の机掛等にいろ〳〵あまた〳〵鐵製あらざるも
なし
鋏小刀等佉人の日用の佉なるものの又食脇
の三ツ道具即ち七、三ツまた、小刀あごの如き
も處〳〵甚出來を見る懐中小刀を二挺出三挺
出あとよびて一ツの室〳〵數挺をこゝろみりのも
多くあまたゝ魯西亞人の出來りて小刀鋏
千枚通し鋸口木ぬき、袋ぢ等あまたの物をこゝに二
十四挺出みしたるあり英國人の出來したる
三ツ道具をこゝろ〳〵鍍銀みして銀の色こゝろ
美〳〵しの柄小刀の柄あごも細こきを彫をを
みしたるあり
布を織る箴をわが國にも皆竹を削て用う
もゝも西洋あるいづもも鋼鐵あつて製造を
もちゐ精好みして糸のかるべきものを織
もる格別あるを箴を適宜の長さみ末
裁鋼のいまゝ箴み編ざるかを妙〳〵出來いまゝ切ら
ざるみを時計の發條のごとく渦巻みして箴のか
ゝるもあるこれ利の

出ヲ取リ
大ナルモノヲ鋳ノ管アルヒハ空氣ヲ通ヲ道具
エンチレーポムプノ
トル
ヒヲ錨大小砲甲鐵板
モノ細工ヲシテ敷迄ヲ
ノヲ製スル術ヲアラ
ラヌルモノモアルヲ又
機関ノ部ヲ出ヲリノ
英國ノ部ヲ車ノ軸ア
寸長サ二間半余アリ

て銀ノ如
縦廊甲ノ十三ノ前ヲ別ヲ一部ノ家ヲタテ銅真
鎗鋳等ノ細工ノ出ヲ所ヲ銅鉄ノ板ヲヲシメ
れヲリクル法品安全金箱等ヲシ
てヲ桶水桶等ヲいろ
れくつろ称ヲ
カ子綱ヲ鋳真鎗銅等ヲテ作ル大抵幅ヲ三尺余
ホーてヲけ长ク端物ノ如ク書ヲ出品セリ其
目ヲあらきヲくろくあるヒヲ箭ヲ
用ろりのあるヲ甚リ
ろもらまくろ弦金ノ

細き蚕生糸の如く地の
こまらを絡節、毛節の場所不用うりのあり
網を大てん機を織る
織るく仕たるものみ
のものく如く六角ふ編ム成せうる甚だ
結ぶ金ものまく種くあり機械ふく仕り
たるものなどさ然くうるひくく美一大礼服
の飾ものまうるもの如きう法國の工人手を
らうふて出ふーたる

次巴ふくオ一等の褒賞を受くうるか
佛蘭西ふ九人あるもの
を掏飾り、耳飾ものまう金、銀、名玉の細工あるひ
度々の飾ものふ用うるからうるもの人形ものまう外花瓶
のユ人又を鋳物師あるひ又を根尾ふまる銅
鉛の細ユ人ものまう
英國ふくを六人ふして銀、かくかくの細工場、あ
るひを鉄、鋼の製造所又を蒸氣の機関ふ用うる
小さきかふりのを銅ふく製したる銅器社等
奥地利を金銀細ユ、玉細ユ、あるひを錬、鋼の細ユ

右ふく惣数二十六あるよ石川氏の横山弥九
やの國ふく賞牌を得たるふ六人西京の金谷五郎三
師連東京の百ふ漸惣右ふ及び孝抵等の金銀の
らふの細工ものふ小竹清右ふからふ製の小
簞笥入間氏の漆折の
表章を得多ふりのふ東京の中川淳益小畑道
高瀬抵龍文堂安之助西京の奥村房次郎西京東
京のからふの細工筥磨氏の加ふりの細工置賜氏の

ものふーりて仁人あるも却ウィンナの人ふ
も
獨乙ふからふの錂のふ又ふ鋳物の細工揚等ふ
て三人あるいづれも普魯社領のもの
以ふ利ふ金細工の飾りものの鉄の細工もの等ふ
てふべて二ツ
白耳時ふ鈿狭ふの製造所及びふき竈ふふ鋳物
をふる社中ふべふ二ツ
其余ふ匈加利の鋳物師是ふの金、銀、銭の細工も
の各ふツ

鈴木善吾藏あるも

博覧會見聞錄巻之七終

博覧會見聞錄巻之八

才八匠

木細工の物の匠

狀匠の才一枝を床板、窓の仕掛け、引き戸等の類才二數を指物の枝才三枝い巻の於、屋根板又々木をく仮ぴかこれを用うる箍おど弁に枝を早附け木並びに細く割りたる木才工枝を化粧板枝おく寄木細工木象眼の枝才六於を轆轤

細工者七枝を彫物細工者八枝をコルクそて縮
の口木を用うる木あるこれを作るの
木物千枝九枝を籠細工者十枝八木細工よあ
てたるものをあるひは塗りてあるひは画ぎ
品物あるを
西洋の家の床板多くは寄木にて作る
色の異れる木をもて合せ市松菱つなぎ等の
如きものこまごまかものを花菱あるひは菊の
花の如きものあり格子の内よりもたる形ちを
作る寸法大抵に五分の板をもて合せたるかあり
其もぎ方もたくさんが殊に駿河細工箱根細工の香箱
のおりての如くみて大なるものあり希臘の出
品ふ八角はわざおーて甚中小一、花のもやうを
切箱究たる床板あるを九尺に方ぐのを寄せ
木を井桁の如き簀ふたをめ四隅ふくびをかひ組
うてハもえくくてもあーて作る甚を積きを
もあらいせを
家をいづまる石室あるひは煉化石製作まべ出入
口及び窓等皆別ふ作ふて取附るものあるを
バその簀及び戸等もこの新ふ列ら称たを

搆への外ゟ別ゟ一彩の家を建て右の如き寄木
細工の床板、天井等の彩のゝ他の物を交へゞゟ
ゑたゝふりのあを
簞笥、戸棚、机ゝ一かけもの木製れるりの甚だ
美ーきあを木目を画きゝ木地のりのゝゟ
ゑあらひい塗つゝ英人の出ゟ唐桑ゆうの美
く見せるもあを一枚板ゝ作たる戸棚鏡
ーき木目あゟ木の一枚板ゝ作たる戸棚の
立ゟどあを其艶ゆのれるゟ比ひゟー又戸棚の
上あらひい机、床飾りゟゟ机、姿見の鏡の簞笥
どゟ種ゝの彫りのをーたるあをあらひい人物、
天人ゟど又ゟ鳥獣の枝又ゟ草花かゝくゟ当拾
さー、鏡の簞笥どゟかゝくさゆうのりのを彫をぬ
好ゝゝゝのひてゟ飾るあをこゟ甚彫りぬ
き遠ーりゆうゝゟー
ゝ屋き彼ぐゝを紙ゟ書きたるを板ゟ貼をー
てゟどゝゝ所ゟ孔ゟ穿ち糸のゟく細き鋸を通
ーゟゟく作をたる弓をゆゝ張をゆが弦掛け
鋸のゆゝくゟおー彫りぬきゝ作るりの彩を已ゟ
彫りあげて飾りふーたるりのゟ彫をたるもの

画を張りたるのごとく　いまだ彫刻を施さざるものあり　これを磨き画の板よりうるまで順序をたてて出来したるあり

名木甚だ乏しきの折柄　戸棚、簞笥の板いづれも同板の材あり　仮令雑木なりとも仕組を能くして見ゆるところのごとき木の薄く色ぎたなきものあり　腐朽これを化粧板という

木化粧板は一枚板あるもあり　寄木細工木象眼あるもあり　甚だ高価なるひいな五躩台などあるひいなかくのごとくむらなき美麗きわまりなく拵えい

機械あり　これを磨き　皆表のかたちを艶やかに削りあるいは幅あびきて出ずるなり

木製の家財を諸国大抵出ずるも英吉利人を家財あるが如く外貌を飾らず日用の便利よろしきをとるという風あるを以て利佛蘭西両国の出ずるは巧みにして甚だ多くのおもむきとくに甚国の工業なり　甚だ怜好の彩奇あり　佛蘭西人も美事なるを好めど木細工のものは甚だおもむき自

鉱ふあるいは以ち利人を笑藥を好く諸事相尚
して穏當あるをもとさる風あるされば以ち利
の木細工の家財の彫刻甚國カグリアリ
皆名作ふして他國ふ其類ふし甚だしいふ人の出品したる
ものとい所のピュクシー机のかき古代のモザイク并九匹ふの味あるこ
れらべナンジーといふ人彩色をふしピュクシー
うの彫刻たるものの如くいふ名木を集め名工
の作たるものあるべき寄中の寄物中の妙とい
ふべきものあるを

また同國同処のフランセスコグランジーといふ人の出ふの肉ふうきれあってこれふ名るきコロンビュスといふ人の生涯の中種くの事あってし摸様を附きたる甚机の脚を黒檀ふく作て銅ふ金を着せうるかふものをもち全躰を人物獣草木等の飾りをつけよ面ふる先つコロンビュスがこうを写し其次ふるコロンビュス亜米利加の地を発見せんうく船をふ乗出をさる面を写し其次ふ既ふ乗り出しなる途中ふく水夫ふる退屈ーコ

ロンヒュスを怨むるをコロンビュスさとして鎮静せしむるさる次ふる亜米利加州を発見して帰る時の祝のクしき次ふる亜米利加ふコロンビュス亜米利加ふ至るまし時國旗と劍とを左右のまふ執て水夫どもを限まく喜びたるさま又其地の土民を前ふ未まを頭をかゞけ居るさまを写したるを其中ふ尖たる天地と水との模様ふして字せ来細ユみゝ作をたるあまを其模様といひ細ユゝいひ比あらざる名作あまを其外ふ箱ふも化粧板ふゝ覆ひたるあるふれふ用うるものあるひふ紙糸木のゆくあるひふ紙のゆく布のゆく薄くしたるもあるを駿河細ユのかき模様を置くものふ皆紙のかきものみゝ作るゝ木のいろゝふ染免さまるゝをされを其用うるを出しふらふれをさぎ合せゝ種くの紋あらしおしたるを重き又こうをみゝ作たるまふ箱等の表をも添うを美國の新ふる種くの竜の木を五釐角位ふ切をこれを以右利の古風のモザイクのゆくふ寄せたるあを墺地利の新ふ奇木細ユの簞笥の義しきあを白

くして光ある木の象牙の如くなるを
て艶やかある木をもて合せ古代のもやうを
出せるなり
麦藁細工を西洋より
も甚だ劣りて称美
を損ずるをいとむべし粘のかげんみるなら
ん紙のごとく削りたる銃房より寄木細工をなし
頗る丈夫なる事を
するあるべし
西洋ふた竹の枝あしきを窓甚外の簾をこい
つるも木を細く割りて作る事巧を競ふ出来ま
た多し勢ひ
致あるがごとき
澳地利の出来才
まあるを人あまた立れ
あるもあるを
遠きところの見ゆるがごとし
を但し白木のまゝにて塗らざるを
あしゝ
七寸もあるべきコルク陶の口ふさぐ木

を彫りたるあるをコルクを薄くのみ刀あるを切
る事をも思ふまゝ彫ぬかるる浮上げ彫あど
さるをも妙といふべく奇しいふべし其本をコ
ルクを紙のかく薄くしたるもあり糸のか
く細くしたるもあり又渦巻を切たるもあり
澳地利の新ふをコルクを紙のかく落くしたる
みゝ遠きたる花あり甚事ハ已ふ及ず造り花
の新ふのせより
籐細工の出ふもまさりてさうあり机掛等のるん
ろさうあり飾ものとあるものあり

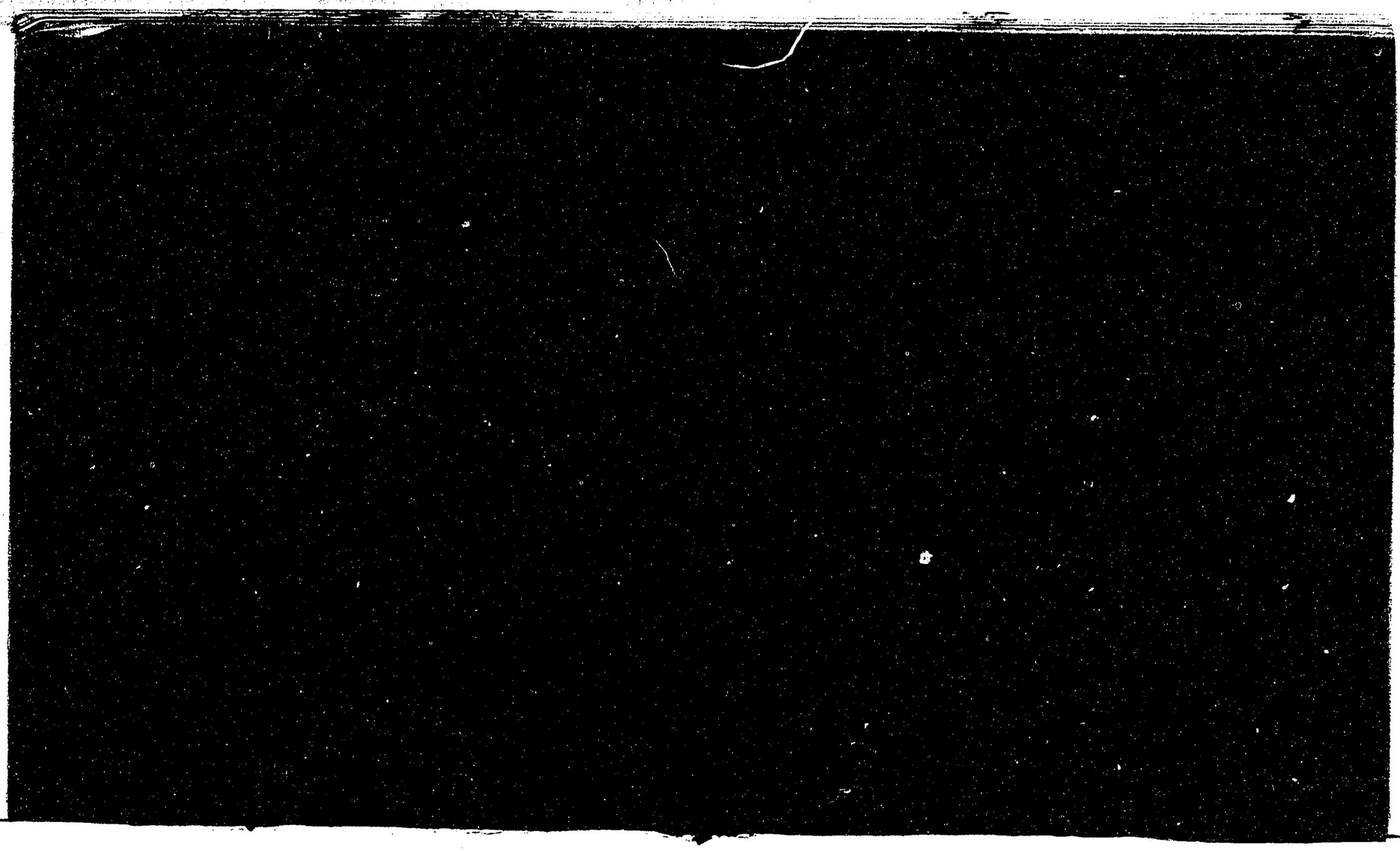
いろ〳〵編て壁をかざるものあり籠の
鉄ろこふ多し又籐のんの不用とあるべきもの
あく称ごのわきものを他を靴拭ろを五色ふ
漆をしたるあど中〳〵美しくこれらか白耳時の出
来ふ至籐細工を和蘭よりむ時の如く多のらぎ
驢驢細工を木製の球あるひハ環、丸柱、机こしか
けの御当正圓のもの鞠しく出ふあを驢驢をつ
ぎの國のもの〳〵如くまく引ふあるぎ御あて踏を
て動かすものあるぎ別ふ引人を用ろる小及び

ぎゝ蓋氣風車、水車を用ふることろ〳〵ゐ楕圓、拋物線、双曲線、勾玉ゐの物まで、皆轆轤細工ゐて削生ゐを仕掛ゐて、ゐまれゐ動ゐものゐ、てゐさらゐゐいをぞきめゆるむる事自在ゐ螺釘の用ゐ甚ゞ廣く、ゐを作ゐ母螺を彫生ゐ、製の螺の出ゐこれまゐ各所ゐ多く見えゐ額緣ゐ、ゐき細きまのゐ、ゐを擧地利の人額緣の見本のゐを出ゐたる

ゐ金箔おきたるもの漆ゐ〳〵塗りたるもの木地のまゝゐるものいづれも長きまゝ〳〵能ゐけれゞべたゐを遠くゐめゐ潑のゐく見えゐ

ゐ

扨ゐ〳〵一等の褒賞を得ゐる者ゐ十三人ゐて佛蘭西の都パリスの人墺地利の都ウィンナの人二人獨乙のサキソニヤの人二人以太利の人二人英吉利の人瑞西の人魯西亜の人各一人いづれも家内ゐ用ゐる道具抔の細工場をゐてゐる人ゐて獨乙の普魯斯の人ゐ鏡の鞴の細工ゐ〳〵

共賞を得たり
やが國みくに阪府巴風ふうより森氏の津輕塗つがるぬりの道具、
秩父田氏の妹代妙子、書を静岡
氏の山本安吾氏の寄せ木細工鳥取氏の西村莊一
郎の木象眼東京増田朴斎のさゝもの静岡氏の
竹細代有馬の閑古清右衛門の中村長次郎の竹細工
東京村瀬花三郎の竹のさゝもの大坂府および
堺邑氏の麦わら細工東京宮川左七の麦わら細
工の見本東京の武義屋某が作りたる家の雛形
水口の西村爲七の籐細工東京の坂新熊次郎が
籐細工皆賞牌を得たり
又山口氏の竹細工筑摩氏和歌山氏度
會氏の籐竹細工和歌山氏度
會氏の妹子もの東京の大島義三郎が桶る東
京の後巴仙之助が透一彫の額を皆表章を得
たり

博覽會見聞錄卷之八 終